

かなしまももたろう
金島桃太郎

◆むかしむかし、あるところにおじいさんと
おばあさんがいました。

おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさんは川
に洗濯にいきました。

◆すると、川上からどんぶらこどんぶらこと
大きな桃が流れてきました。

◆「じいさんや、川に大きな桃が流れていた
よ」
おばあさんは桃を家にもちかえり、おじいさ
んといっしょに割ってみると中からあかんぼ
うが生まれました。

「おぎゃーおぎゃー」
桃から生まれた男の子は桃太郎と名づけまし
た。

◆桃太郎は村の中ですくすくと成長しまし
た。ある日、悪さをする鬼の話が話題に。

なんでも村を襲つては食べ物やお金を奪つていくそうです。大きくなつた桃太郎はみんなのために鬼退治の旅にでることを決めました。

◆「桃太郎や、これをもつていき」

とおじいさんとおばあさんからきびだんごをもらいました。

旅に出るとまもなくきびだんごにつられたイヌサルキジが仲間になりました。

「変なのが仲間になつちやつたよ」

◆さらに道中、マサカリをかついで胸に鉄の字をつけた少年が仲間になりました。

「おら鉄太郎。クマといっしょに鬼退治についていくぜ」

◆湖のほとりにたどり着いたときです。クマにまたがって居眠りしていた鉄太郎がうっかりマサカリを落としてしまいました。

ばっしゃーんと水しぶきが上がるとそこに女神さまが現れました。

「あなたが落としたのはこの金のマサカリで

すか？鉄のマサカリですか？」鉄太郎の胸の字を見ると「あ、鉄ですね。あなたは正直者ですね」

「何も言っていないけどラッキー」

鉄太郎はなぜか金のマサカリをもらいました。そして鉄太郎は金太郎にレベルアップしました。

◆そんなこんなで桃太郎たちは海までやってきました。

目の前に広がる海の向こうには鬼ヶ島が見え

ます。

◆浜辺には人だかりがあるので見に行くと亀がいじめっ子たちにいじめられていました。

「やめるんだ、亀さんをいじめるな」
いじめっ子を追い払い亀を助けました。

◆「ありがとうございます。お礼にみなさんを龍宮城に招待します」

桃太郎たちは亀の背中に乗って海の中にある龍宮城へと連れて行かれました。

◆龍宮城では、乙姫さまとアマビエと魚た

ちが美味おいしい料理りょうりと踊おどりで歓迎かんげいしてくれまし
た。

◆すっかり楽たのしんだ桃太郎ももたろうたちは気きづきまし
た。

「いけない、鬼退治おにたいじの途中とちゆうだった。乙姫おとひめさん
帰かえります」

「それではお土産みやげに玉手箱たまてばこをおもちくださ
い。困こまった時ときにあけてください」

◆亀かめに連つれられ浜はまにもどるとそこは西暦せいれき
2020年ねん。

初はじめて見みる大おおきなビルや車くるまに桃太郎ももたろうたちは驚おどろ
きました。

◆「こまったな」
「こまったときはこの玉手箱たまてばこだ。あけてみよ
う」

玉手箱たまてばこを開あけると中なかから白しろい煙けむりが出てきて、
煙けむりに包つつまれた桃太郎ももたろうたちはおじいさんになっ
てしまいました。

「よぼよぼになってしまったな」
「そうじゃな」

「そうだ。鬼退治はどうした？」

「腰が痛いでしょうがない、行くか」

◆桃太郎じいさんたちは海に止めてあった豪華クルーザーを勝手に借りて発進。

鬼ヶ島に向かいました。

◆鬼ヶ島につき、鬼のすみかに着きました。

「やい、鬼たち覚悟しろ」

「ええ？ なにか言ったかのう。耳が遠くてのう」

そこにいたのはよぼよぼに年老いた鬼でし

た。

「ああ、桃太郎さんですか。ずっと待っています。

たです。年ですし悪いことはもうしてません」よぼよぼの鬼はすぐに降参しました。

「そうか、そのようじゃな。ではいつしよに釣りでもしようか。良いクルーザーがあるんだ」

桃太郎じいさんたちと鬼たちはいつしよに遊んでくらししましたとき。めでたしめでたし。